

《担当者名》 歯学部教授 / 中山 英二 歯学部講師 / 中谷 温紀 歯学部助教 / 杉浦 一考

【概要】

歯科衛生士としての業務範囲で行い得る電離放射線業務と画像検査業務の基本を理解する。

【全体目的】

歯科衛生士としての歯科放射線業務と画像検査業務の基本的知識を理解する。

【学修目標】

一般目標

歯科放射線学の概要を理解し、歯科放射線業務を実施できるようになるために、電離放射線の種類と性質、放射線防護の基本的概念と方法、歯科放射線診療の基本的知識を獲得する。

行動目標

電離放射線に関する物理的及び生物学的な基本的知識を説明する。

電離放射線を含む画像検査の種類と特徴、及びその利用法についての知識を説明する。

電離放射線を含む画像検査による正常画像解剖の知識を説明する。

各種画像検査による疾患の基本的な特徴を説明する。

電離放射線の人体に対する影響を理解し、放射線防護の基本理念と具体的な防護方法の知識を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 4	歯科衛生士が行える放射線業務の範囲 電離放射線の定義と種類 X線の発生 X線の作用と性質 X線の減弱 線量と線質	歯科衛生士としての業務範囲を正しく理解し、法律に違反しないように知識を整理することを目標とする。 放射線、特に日常用いることの多いX線については、発生や性質および生体に対する作用などを関連づけて理解することが必要である。	中山 英二
5) 6	X線像の成立 X線フィルムの種類と構造 X線フィルムの現像処理 X線フィルムの良否 デジタルX線撮影法	X線像の成立についての理論を良く理解することが重要である。また、現像操作については日常極めて重要な業務となるので、理論、手技ともに良く理解することが必要である。	中谷 温紀
7) 8	撮影法と正常像 種々の病変とX線像	放射線業務の補助的部分を、歯科衛生士として行える範囲で理解することを必要とする。	中谷 温紀
9) 10	放射線の生物に対する影響 放射線障害 放射線防護 放射線治療の知識 その他の関連知識	患者や術者に対する放射線の影響とそれらの防護についての知識を修得する。 放射線治療の方法や放射線治療患者の口腔管理について学ぶ。 CT、MRIなどの特殊検査について、歯科領域での役割について学ぶ。	杉浦 一考
11) 15	X線撮影法	これまでの講義内容を復習して臨床実習に対応した講義・実習を行う。 歯科領域のX線撮影法についての知識を習得して理解する。	杉浦 一考

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験100%

【教科書】

歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 第2版 医歯薬出版株式会社

【参考書】

「歯科放射線学 第6版」 岡野友宏、他 編集 医歯薬出版
各講義のスライドのハンドアウト

【備考】

1. 講義資料の配布、学習課題の提示
事前に配布するので、実習日には必ず持参する。
事前課題レポートは実習日の指定された提出日に遅滞なく提出する。
2. 講義に対する学生相互の意見交換やグループ学習の実践
学生相互の意見交換を目的にGoogle Classroomを活用する。

【学修の準備】

指定した教科書の「最新 歯科衛生士教本・歯科放射線」を事前に読む。（各講義予習30分）
講義内容を復習し、専門用語や知識を整理する。（各講義復習30分）

【ディプロマ・ポリシーとの関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。

（総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナルリズム、コミュニケーション能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP 4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。

（多職種連携能力）

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。

（社会における医療の役割の理解）

【実務経験】

中山英二（歯科医師）、中谷温紀（歯科医師）、杉浦 一考（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯科放射線学は、歯・顎・顔面・口腔領域の画像診断を通じて、歯科分野全般の治療方針の決定に寄与する科目であり、学理に立脚した学科教育と実務経験を基盤とした臨床教育で優れた教育成果が期待できる内容となっている。